

豊創フーズが出資した「グリーンファームらばん」は県内最大級のトマト生産者

居酒屋チェーン豊創フーズ

滑川町で農業参入

居酒屋チェーンの豊創フーズ(東京・文京、桐山和己社長)は埼玉県滑川町で地元農家がつくる農業生産法人に出資し、トマトやナス、キュウリなどの生産を始める。生産者のはっきりした野菜を安定的に仕入れ、同社が経営する居酒屋の料理に使用する。都内に持つ直売所での販売も計画している。



地元生産法人に出資 店舗に野菜の安定調達

年間4,200トのトマトを生産している農業生産法人に10月に15%を出資。名称を「グリーンファームらばん」(滑川町、渡辺聖文社長)に変更した。栽培面積は5・3畝で、県内への企業の農業参入ではイオンが羽生市で開いた6・4畝に次ぐ規模となる。

豊創フーズは東京都内を中心にフランチャイズを含め約60店展開している。今後はこれらの店舗で使うトマトに加え、キュウリ、ナス、パプリカなどの野菜を生産する。農業生産法人への出資により、生産履歴がはっきりとした野菜を計画的に直接仕入れることで流通コストを削減できるほか、形が悪く市場に流通しない野菜も安く利用できるといった利点もある。農業生産法人にとっても、市場を通しての販売に比べ、大口の出荷先確保で生産計画が立てやすくなる。販売価格の向上や肥料、種苗の共同調達によるコスト削減につながるメリットがあるという。

生産した野菜は、同社が都心部に2店展開している農産物の直売店「八百屋 らばん」でも販売する。これまで契約農家が生産した野菜類を販売していたが、今回グリーンファームらばんに直接出資することで安定した供給をはかる。供給量の拡大に合わせて、直売店を今年度中に新規に5店開設する。グリーンファームらばんが生産した野菜を使った「農家レストラン」の出店も検討している。

豊創フーズは1979年創業。焼鳥店の「串八珍」や中華風居酒屋の「XIAN」などをチェーン展開している。2010年7月期の売上高は約43億円。